

## P5-1 二次性骨折予防における医療の質の維持向上への医師事務作業補助者の貢献～多職種連携における医師事務作業補助者の役割～

○田中 有希子（たなか ゆきこ）

沼隈病院 医局（ドクターアシスタント）

【目的】当院では、医師事務作業補助者が大腿骨近位部骨折患者の初診から維持期までの一連の経過を通して診療支援を行っている。その支援内容に焦点を当て、算定と加療率等の実績を通じて、その役割を探求する。

【医師事務作業補助者の役割】

- ①加算や管理料の適切な管理により、経営に貢献。
- ②患者や家族、歯科や他部門との連絡や情報提供を通じて、関係者間の調整をサポート。
- ③検査や処方オーダー、評価日や診察のアシスト、病歴や生活背景等の情報収集と入力支援、説明・同意書の作成などを通じて、医師の負担を軽減。
- ④患者の情報整理、レジストリ登録、追跡調査などを行い、データベースを適正に管理。
- ⑤患者への継続治療の勧奨や維持期施設へタスキをつなぐための診療情報提供書の作成し継続治療を支援。

【実績】2022年4月1日～2023年9月30日の期間において、二次性骨折予防継続管理料1の算定実績は96例、2は2例、3は241回、緊急整復/挿入加算は10例であった。入院中の加療率は66.5%で、管理料1を算定した96例のうち入院から120日経過した84例の加療率は67.5%（内：69.2% 介護施設や整形外科以外の施設）、加療継続率は81.1%、入院から365日経過した68例の加療率は62.5%、加療継続率は85.0%であった。また、追跡調査率が99.0%、再診率が97.0%と高い水準を保っている。

【考察】これらの数値は、医師事務作業補助者の支援が医療サービスの質と収益性に寄与していると示唆する。

【結語】当院の算定状況などを鑑みると、いくつかの疑問や不安も浮上する。しかしながら、診療報酬だけでなく、当院のような地域密着型の中小病院が地域医療の中心的な役割を果たし、質の高い地域医療サービスの体制を築くための鍵となる必要があると考える。そのためには、評価と治療が確実に行われる診療体制や他施設との連携、患者と家族への継続治療の勧奨が重要である。医師事務作業補助者はこのプロセスにおいて非常に有益である。